



センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

「長谷場イズムの継承」

暁星学園 特別指導員 小野寺克彦



児童養護施設目黒若葉寮の元施設長の小野寺克彦と申します。あけの星学園の石丸園長とのご縁で、4月から暁星学園所属の特別指導員として、法人本部でスーパーバイザーとして、全事業所職員とかか

わりつつ、センターの更なる発展に精励致す所存でございますので、どうぞ皆様よろしく願い申し上げます。

私は、センターとは以前から仕事上のお付き合いで、目黒若葉寮の中・高校生の高齢児童の進路指導・就労・生活支援等の相談で、職業訓練校時代の暁星学園に体験入園及び入校を、新宿寮・清周寮には、児童養護施設から自立援助ホームへの利用移転で、何かとお世話になりました経緯・つながりがありました。

その当時から、高齢児を専門とする自立支援とアフターケアに長けた機能と経験ならびに精鋭（人材＝マンパワー）を兼ね備え、常に時代・社会のニーズに即応した役割を担って行くことを使命としているセンターは、児童養護施設の業界にいた私にとって、頼りになる存在でありました。

センターに勤務をし、創始者である長谷場夏雄先生の講演ならびに直々の講話を聞く機会に恵まれ、その期待以上であることを実感しました。先生の情熱的想いで語る日本の社会を担っていく高齢児＝青少年にかけた揺るぎなき愛情に裏付けられた「一念岩をも通す」の開拓者精神で果敢に挑んだ数々の実践の軌跡は、私には、名作と呼ばれる映画を観ている様な感覚で、その都度、新たな感動と刺激と興奮を覚えて、魂が揺さぶられ、確かな「意志」を体感しました。

その後も、今、挑んでいることの一つにアラビア語を学びたいとお話を伺った時には、私自身素直に敬服させられました。先生の自分の意思を実現する為に自ら陣頭指導して、センターの事業を築き上げていく率先垂範の熱い想いには、すっかり感銘を

受けました。

著書『かけがえのないあなたへ』には、理念がしっかりと長谷場イズムとして、要約されております。その書の中で、センター事業理念を四輪駆動のブルドーザーに例えて、前輪は「研究」と「実践」、後輪は「自助努力」と「支援者」で一体となって、青少年の育成にひたすら邁進してきたとの箇所が載っています。まさしく長谷場イズムを表現した神髄であり、これこそがセンター職員が共有すべき価値観であり、使命感であると思いました。

センター職員の存在・行動のすべては法人理念＝長谷場イズムが基本となっています。すべての事業は、この理念からはずれることなく選択され、行動は判断され実行されます。長谷場イズムは、センターの共有すべき価値観、思想、精神的支柱・考え方及び統治体制です。

今、時代・社会に求められている社会的養護の自立支援及びアフターケアを専門に生業とするセンターは、まさにその基幹的な一翼を担う「範」として、事業を通して、しっかりと社会に貢献している姿を示さなければならないと思います。

今でもセンターには、他施設、他機関からの高齢児の不調ケースが数多く入所してきます。センターの、児童養護ならび自立援助ホームは、快く受け入れて、再出発・再生の場としての使命に、職員一同日夜取り組んでおります。私は、虐待・発達障害等の適応傷害を抱えたケースの社会への自立支援アフターケアの出来るモデルとして、センターに期待しています。センターの持つ資源を有効活用することで、それが出来ると信じております。

センターは長谷場イズムで皆で力を合わせ、そのような利用者に対しても未来の夢の架け橋になりたいと思い、日々職員一同自己研磨しながら励進してまいります。

どうぞ皆様、私たちに暖かい目で見守り、ご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

職員研修を積極的に

センターでは、経験年数および職位別に、その職員にあった研修を開催しています。具体的には、新任職員研修、2・3年目研修および初級職員研修、一般職研修、上級・指導職研修、事業所長研修などです。その他に、職員全体に対しての理念研修も開催しています。職員研修は、職員個々の能力を引き上げるだけでなく、互いの業務を知り合う機会としても、大切であると考えています。

センターの理念を象徴するもの



長谷場専務理事 雑誌『サライ』より

センターの創始者である長谷場専務理事は、50年以上におよび、保護が必要な高年齢の児童を、支援し続けて参りました。長谷場専務理事の行動の根本には、児童に対しての熱い想いや、職員のあるべき姿などの基本的な考えがあります。それこそが、この50年間、数多くの児童に携わり、そして見守ってきたことで蓄積・醸成された「理念」そのものなのです。具体的には、2008年に発行された著書『かけがえのないあなたへ』のなかでも多く触れられています。私たちセンターの職員にとって、この著書は、高齢児童の養護を考える上での「バイブル」としています。

さらに今年度は、「長谷場イズムの継承」を、法人全体の事業計画の柱としています。長谷場イズムとは、長谷場専務理事の理念であり、センター全体の理念でもあります。事業を行なううえで、一番大切な、土台の部分が長谷場イズムといえます。そして、その想いを全職員に知らしめること、継承することが大切と考えています。

法人内宿泊研修 理念研修

11月5日～6日および11月25日～26日に、1泊2日で、千葉県茂原市の日本エアロビクスセンターにて、第5回法人内宿泊研修を実施いたしました。参加者は、2班にわかれ、処遇職員のみでなく調理、心理、事務職も含め総勢64名でした。「センターの理念の理解」を念頭に、3時間かけてグループ討議を行いました。最後には、長谷場イズムから、それぞれのグループが、具体的な行動指針を作成しました。全事業所が一体となって日常生活に理念が活きてくるように考えた研修でしたが、実際に職員が書いた指針をみて、理解が深まっているように感じました。



宿泊研修前半 集合写真 (34名)

仲間と共に成長 —新任職員研修—

今年度は、8名の新任職員が入職しました。そして、4月に3日間、センターの理念および歴史・組織についての理解など、基本的な研修を行いました。また、6つの事業所すべてを周り、実際の業務内容がどのような形で行われているのか、見学会を行いました。現場の最前線にいる事業所長や、職員の方々からの話は、新任職員にとって貴重な体験となったようです。9

月にはそのフォローアップとして、現場に入っの感想やこれからの目標などを発表し合いました。この研修では、同期の職員どうしが悩みや取り組み状況を聞きあったり、励まし合ったりしながら、成長してもらえたらと考えています。3月には、フォローアップ研修を再度開催して、1年の振り返りを新任職員全員で行う予定としています。

ヒヤリハットを共同で活かす

11月29日、入社してから2、3年目を迎える職員18名に対して、ヒヤリハット研修を行いました。ヒヤリハットとは、労働現場の安全衛生用語のひとつで、「ヒヤッ」としたり、「ハット」した情報を集め、共有し、また対策を立て、事故を未然に防ぐ現場活動の1つです。

近年、医療や福祉の現場でも頻繁に使われるようになりました。今回の研修では、グループディスカッション形式で話し合いが行われました。日頃、勤務している現場は違いますが、経験年数が同じ、もしくは近い職員同士が、膝を寄せて語り合うことで、現場レベルの活きた情報交換の場となりました。

このように、日頃接することが少ない、しかし同じ業

— 2、3年目職員への研修 —

種の人間と語り合うことは、とても大切であると考えています。自分一人の力ではなかなか見えてこないことも、他人の言葉を介して感じたり、触れたりすることで、おぼろげながら見えてくる。また、ベテランになればなるほど、ヒヤリとする感覚が減ってくるのだらうと思います。

だからこそ、この研修の効果が、職員全体に波及すればよいと考えています。全体で共有することによって、スキルアップにつながるのだと思います。



事業計画を具体化する取り組み — 一般職研修を通じて —

センターの6つの事業所では、事業計画の実施計画をそれぞれ作成しています。10月5日、各事業所の一般職員20名が集まり、その実施計画の発表を、プレゼンテーション形式で行いました。いままでは、上級職員への研修として、この発表を行っていたのですが、今年度より一般職員への研修としました。理由は、より多くの職員に、所属している事業所は当然のこと、他事業所の事業計画も理解しながら、また、センター全体の理念を念頭に置いて、業務に取り組んでほしいという願いからです。

当然ながら、事業所の事業計画は、センターの理念から導き出されています。その理念から中長期計画が打ち出され、そして単年度の事業計画が策定されます。先に書いた理念の研修と、事業計画の実施計画発表の研修は、太く結びついているのです。こうして理念か

ら事業計画および実施計画というように、具体的内容に絞り込みます。そして職員が合同で発表できる機会をつくることで、職員が持っている情報の共有を目指しています。と同時に他事業所がどのような取り組みを具体的にしているかを知る良い機会ともなります。

年度末には、実施計画を基に、1年の活動を振り返る機会として、再度一般職員研修を開催します。この振り返りを通じて、翌年度の事業計画へと継続していきます。業務の計画を立て、それを実行、検証して、改善点をまた次の計画へ盛り込みます。いわゆる“スパイラルアップ”となればよいのではと考えています。



上級・指導職研修

10月26日、暁星学園にて、上級・指導職の職員12名を集めた研修を行いました。小野寺特別指導員の講話「長谷場イズム継承」は、できないことに挑戦していく、思ったら行動に移すなど、具体的な行動を導き出す話でした。その後、上級・指導職の役割と期待について話がありました。法人全体を俯瞰する目を養うこと、互いの事業所が連携しながら協力しあえる仕組みをつくること、経営に関わる視点をもつことなど、組織人として大切な事柄を学ぶことができた研修でした。



暁星学園自治会室にて職員12名と

大盛況の扇バザー

10月13日(土)、14日(日)に、足立区扇のセンター敷地内で、バザーを開催いたしました。地域の方々も、このバザーを楽しみにしてくださり、毎年お越しいただける「リピーター」も多く、ありがたい気持ちで一杯です。入所している児童たちも手伝ってくれて、大助かりのバザーとなりました。売上金は、退所児童のアフターケアに必要な費用を賄う「アフターケア基金」として、法人で積み立てております。この基金も毎年少しずつではありますが、増えています。今後とも、退所後の支援をより充実させていくべく、努力をいたします。皆様、どうぞよろしく願いいたします。



トン汁・焼そばなどの屋台も大にぎわい

新宿寮移転建て替え計画 再スタート

この計画は、東日本大震災によるさまざまな影響により、延期せざるを得なくなりましたが、必要性が高いことから、東京都および国に対して、再度、建設申請をいたしました。2013年9月に工事着工、2014年9月に竣工の予定です。建物は、鉄筋コンクリート3階建てで、1階には地域交流スペースを設け、2、3階を新宿寮として名前も「長谷場新宿寮」とする予定です。

長谷場専務理事の理念を引き継ぎ、実践してもらいたいという思いから、名付けました。移転先は、暁星学園およびおうぎ寮がある足立区扇のセンター敷地内となります。



「長谷場新宿寮」模型写真

清周寮・ほきまホームの建て替えも必要

センターの後援者で聖心会のシスター岩下の、「男子ばかりでなく、女子も転落するまえに、センターで何とかしたい」という思いを基に、1974年、少女たちの避難の場として「清周寮」が始まりました。

これまでの38年間、350人以上の少女たちが、寮から社会へと巣立っています。長い間、少女たちの自立を支えた寮ですが、建物の老朽化が著しく、昨年の東日本大震災で、さらに被害を大きくしたのです。非常用階段に亀裂が入り、このままでは落下する危険がありました。その為、緊急に改修工事を実施しました。その費用は、地震保険によって賄うこととなったのです。保険がおりるような状態の建物ですから、早急に建て替えが必要なことは、いうまでもありません。また、暁星学園のほきまホームも同様です。そして、センターの中期ビジョンとして、2014年度に建て替えを行う計画を策定

しました。

今後、現場の職員の意見を聞きつつ、実質的な作業を設計者と行っていきます。明日を担う少女たちのために皆で努めていきます。



1974年清周寮建設時写真(中央左後がSr.岩下)

～ 事業所からのお便り ～

「お正月」の家開催 —新宿寮—

秋になり新たな寮生が入寮したこともあり、奥多摩でバーベキューをしました。前日の買い出しや食材準備では、寮生も協力してくれ、職員、寮生が一致団結して、楽しむ事ができました。

年末には毎年寮生が楽しみにしている「クリスマス会」、年始には新宿寮から自立後何年たってもお正月に帰ってこられるよう、職員みなでおせち料理を用意し卒寮生を迎える「お正月の家」を企画しております。卒寮生も含め、子ども達と共に楽しい冬の思い出をつくってきたいと思います。



賑わった清周寮祭 —清周寮—

9月25日(土)、毎年恒例の卒寮生とその子どもたちを集めた“清周寮祭”を実施しました。30名ほどが集まり、職員手作りの料理を囲みながら、楽しいひとときを過ごすことができました。みんな集まってくれてありがとう。また、11月11日(日)には、日頃からお世話になっている警視庁台東少年センターおよび竹の塚警察署のご厚意により、寮にて本格的な“うどん打ち体験”を実施することができました。モチモチのさぬきうどんは、とても美味で、寮生も喜んでおりました。この場を借りてお礼申し上げます。



きれいな暁星学園 —暁星学園—

フィリップモリス社の社員の皆様が大勢で、学園にボランティアをなさりにお越しく下さいました。窓拭きや床拭き、草刈りまで徹底して、掃除をしていただけました。とてもきれいになった学園をみて、児童たちもとても喜んでおります。この場を借りて、厚く御礼申します。

また、学園で利用していた車のカラーバンですが、調子が悪くなり困っていたところ、後援者の方から、状態のよい日産車 TIDA をご寄附いただきました。大変ありがたく、感謝申し上げます。



PHILIP MORRIS INTERNATIONAL

初のおうぎ寮祭 —おうぎ寮—

10月20日(土)、おうぎ寮では初めてとなる、卒寮生を集めた“おうぎ寮祭”を開催しました。

退職した職員や他事業所に異動した職員も駆けつけてくれて、楽しい会となりました。成長したのもしくなった顔やなつかしい顔を見られて、うれしかったです。ありがとうございました。

今回来られなかった人たちとも、久しぶりに連絡がとれてこれを機に、また相談してくれたり、遊びに来てくれたりしています。毎年開催しようと思っていますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

巣立ちの支援 —あけの星学園—

高校3年生の女子が退所に向けて、自活訓練棟で1人暮らしの練習をしています。自活訓練棟とは、アパートで1人暮らしができるように、日常生活を訓練する場所です。慣れない食事の準備から、朝自分で起きることなど、実際やってみて、体で覚えていかなければならないことがたくさんあります。いいかえればこれは「巣立ちの準備」であり、とても大切なことです。学園では、この部分に力をいれて支援をしています。



自立生活へ —ノエル—

ノエルで2年半暮らしたNさんが、はれてこのたび、アパートでの自立生活を始めることができました。おめでとうございます。Nさんは、清周寮を退所して通勤寮に入所、グループホームを経て、ノエルに入所しました。そしてついに、念願の一人暮らしを始めました。それまでには、職員と共に、一人暮らしをするために、金銭管理を始め、食事療法についても、お弁当を配達してもらえるシステムもあること等を勉強していきました。時間はかかりましたが、漸く一歩を踏み出しましたので、これからも着実に歩んでいかれるようにと願っています。

『かけがえのないあなたへ 改訂新版』販売開始！

長谷場専務理事の50年の実践をまとめた著書『かけがえのないあなたへ』が、2008年の発売以来、大変ご好評いただいております。おかげさまで、1000部すべてが完売いたしました。このたび、ご好評につき、改訂新版を発売いたしました！価格は、お求めやすく1000円です。送料は、別途1冊につき80円となります。ただし、初版にあった映像はつきません。また、再販によせて、著者の想いを新たに掲載しています。ぜひ、子育て中のご友人や、その他、多くの方々にお薦めくださいますよう、お願い申し上げます。ご注文は、下記までお願いいたします。

本部メール:2728@wfc.or.jp 本部FAX:03-5939-7880



サライ大賞を受賞！

雑誌『サライ』のサライ大賞(人物部門)を長谷場専務理事が獲得しました。サライ大賞は、読者による投票と審査員からの選考で決定されるそうです。数多くの著名人のなかから、長谷場専務理事をお選びくださった、読者の方々に感謝いたします。あらためて、児童福祉、とりわけ身寄りのない高齢児童の自立支援に、「世の光があてられている」のだと、感激しています。同時に、身の引き締まる思いです。皆様、ぜひ『サライ12月号』をご覧ください。

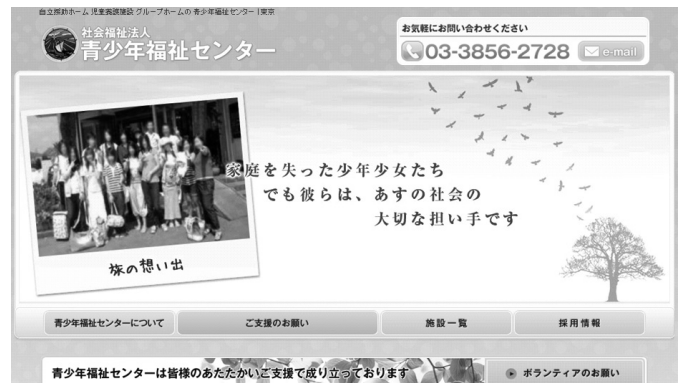


ホームページ一新

センターのホームページを見やすい形に一新しました。トップページメッセージは、「家庭を失った少年少女たち、でも彼らは、あすの社会の大切な担い手です」。これは長谷場専務理事が考えた大切な言葉です。

アドレスは以前と変わりありません。ぜひご覧いただき、わかりにくい点、改善点等、ご指摘いただきたく存じます。

ホームページアドレス www.wfc.or.jp



お詫び

前回のセンター通信 2012年夏号で、聖心バザーの企業協賛者一覧を掲載いたしました。数社の社名および後援者のみなさまが抜け落ちていました。ここに訂正しお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

- ・オハヨー乳業
- ・清月堂
- ・フォーラムエンジニアリング
- ・後援者の皆様

編集後記

長谷場イズムの継承を念頭に、職員の研修に益々力を入れている今年度です。「新宿寮」の建てかえ計画も再スタート致しました。次代を担う青少年を育む為に、ハード・ソフトの両面で努めて参りますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替

加入番号 00170-4-96636
加入者名 社会福祉法人
青少年福祉センター

